

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

釧路美術協会（深谷榮樹 会長）が主催する釧美展が今年度、100回目を迎えた。同協会は1921年に創立された青空画会が前身

全道に釧美展アピール

で、これまでに洋画家の小

43年の第27回展まで同人

ヤー教室が盛んになり、萩

事務局長として会の体制を

林数、寺島春雄、増田誠、展として発表活動を続けて文化賞、2015年に北海道文化団体協議会賞、16年に北海道文化奨励賞を受賞した。

① 日本画家の小山熾、彫刻家きたが、戦争のために中断。46年に公募展として復活し、59年に現在の名称に変更した。60年代にはカルチャー教室が盛んになり、萩

原勇雄、小山田武、米坂ヒデノリ、齊藤一明、藤本正豪、川本ヒロシの各氏らが指導に当たり、底辺の拡大に努めてきた。

2016年には市内の小中学校や幼稚園の教諭を対象にした絵画の研修会を実施したほか、同年始まった釧路市小中学校芸術文化活動支援事業にも次代を担う子供たちのために協力している。1956年に釧路市

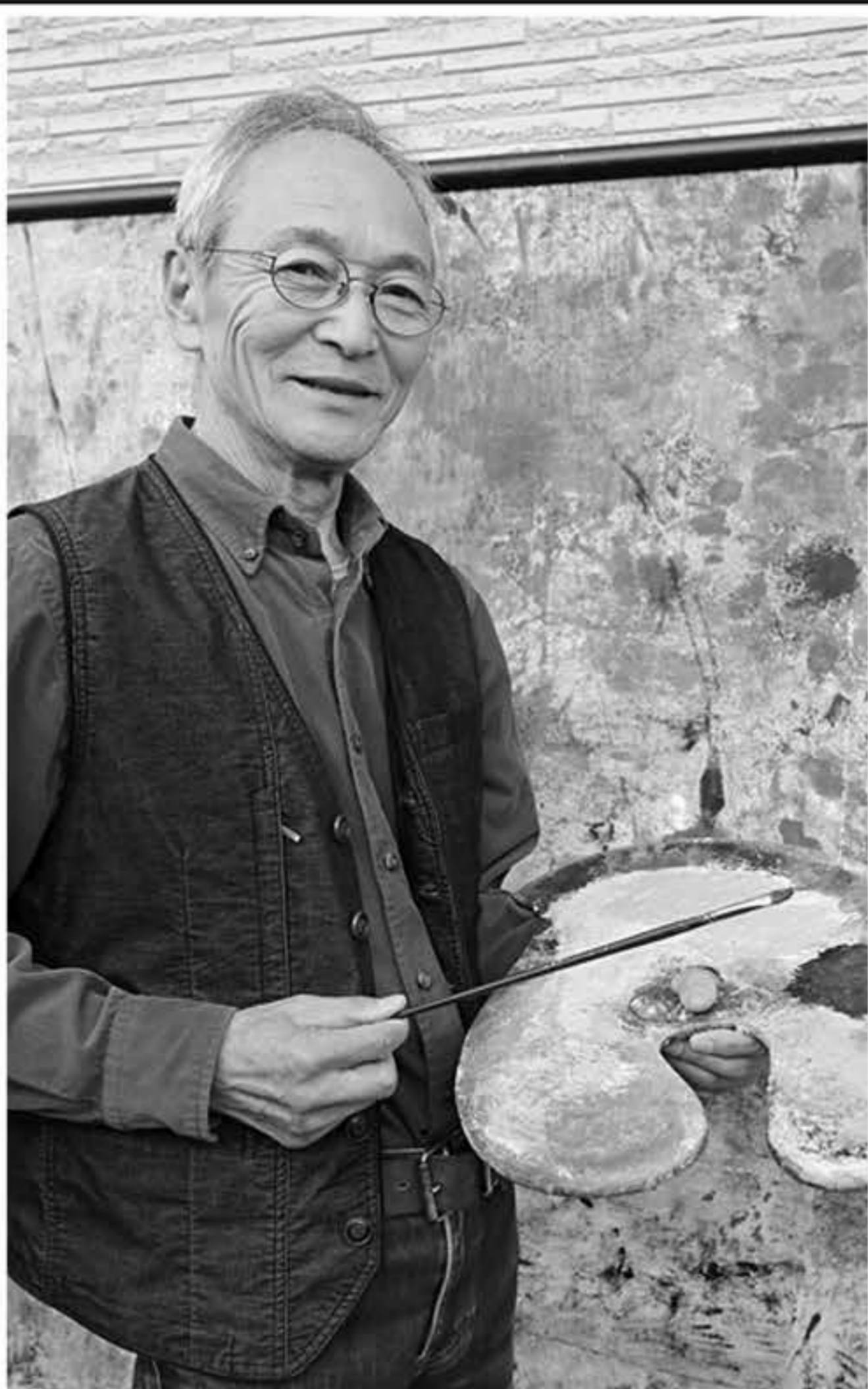
釧路美術協会

特別賞

「今後も会のレベルアップを図り、特色と魅力のある美術団体を目指していきたい。そのためには釧根の風土と自然を大切にし、全道に釧美展をアピールしたい」と意気込んでいる。

飲酒運転根絶

指導員ら研修



今後も特色と魅力ある美術団体を目指していきたいと話す深谷会長